

うるま市石川地域まちづくり推進計画素案に関するパブリックコメントで寄せられたご意見と回答
 ~ご意見ありがとうございます~

■受付期間 : 令和5年1月26日(木)~令和5年2月27日(月)
 ■受付人数 : 9人
 ■意見数 : 61

No.	ページ	項目	ご意見	回答
1	1	第1章 石川地域まちづくり推進計画について 1. 計画策定の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、 ・ ・ ・ ・ そもそも目的の中に事業者の参画、投資とあり、端から開発ありきの計画となっている。本当に住民の理解が得られるのか疑問である。 	<p>ご意見として承ります。 本計画は、投資が必要と判断したエリアにおいて、公民連携による各プロジェクトを実施し、地域の経済活性化を図ることを目的としています。</p>
2	3	第1章 石川地域まちづくり推進計画について 2. 計画の対象区域・期間 (2) 対象期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各プロジェクトは短期(～2030年度(令和12年度))、 ・ ・ ・ ・ 短期のプロジェクトは大規模な開発が伴う計画がされており、早急すぎる。住民理解や地域のコンセンサスを得るためには時間をかけるべき。 	<p>12～15ページ(第3章 1. (1))にお示しているとおり、本市及び石川地域の高齢化が進行する中、石川地域の将来にわたる発展に向けては、現時点から雇用の受け皿の創出や居住環境整備といった取組を着実に進める必要があることから、本計画では各プロジェクトの取組期間を短期、中期、長期に分けて整理しています。 今後の各プロジェクトの推進にあたっては、引き続き地域の皆様のご意見の把握と反映に努めます。</p>
3	5	第1章 石川地域まちづくり推進計画について 3. 計画検討にあたり留意すべき視点 (2) 持続可能なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 財政負担を伴う新たな公共施設やインフラ等の整備が生じることも想定されますが ・ ・ ・ 過大な投資や施設間での役割の重複等が生じないように留意し検討します。 ・ この計画案が本当に「持続可能なまちづくり」の案となっているか甚だ疑問。似たような箱物はいらぬ。子孫に負債を残すのみである。ソフト面に投資をする計画に見直すべきである。 	<p>ご意見として承ります。 本計画は、持続可能なまちづくりに留意することを前提に、公民連携による経済活性化を図ることを目的としています。</p>
4	10	第2章 うるま市及び石川地域の概要 2. 石川地域の概要 (2) 歴史・沿革	<p>石川市に生まれ育ち、家庭を持った今もこの石川地区に住んでいます。小さなまちですが、住み慣れた石川が大好きです。合併してうるま市となり、利便性が増していく一方、何かどことなく覇気がない感じが拭えません。教育活動や地域活動に熱心な大人がいる一方、子どもたちの地域への愛着が希薄な感じがします。自慢できる施設が地域にあり、利用できる環境があると、自発的で活発な行動も期待できるのではないかと思います。子どもたちの成長と学びの場の環境整備を切に願います。 戦後の沖縄政治・経済・教育文化の中心地とされ、“戦後教育発祥の地”でもある石川地域を、“図書館”を中心にうるま市の「知」の拠点としたまちづくりとして、推進して下さるよう熱望します。 このプロジェクトの基本方針(1)地域内の人が集う賑わい交流空間の形成、(3)住み続けたいと思える居住環境と産業振興が調和するまちづくりをぜひとも実現してほしいと願います。ご検討頂くことを期待しております。ご一読ありがとうございました。</p>	<p>ご意見として承ります。 今後、各プロジェクトを推進する中で、地域住民ワークショップや事業者サウンディングを実施し、実行性などを含めて方向性を決定します。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	回答
5	23	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 2. 既存計画における位置づけ (1)うるま市都市計画マスタープラン（平成22年3月）	・「うるま市都市計画マスタープラン」と今回のまちづくり推進計画との整合性はどうか。 なっているのか。	本計画は、「うるま市都市計画マスタープラン」等の既存計画との整合を図りつつ、必要に応じて新たな取組等を盛り込んで策定しています。
6	24	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 2. 既存計画における位置づけ (1)うるま市都市計画マスタープラン（平成22年3月） ③地域別方針	・北部東地域では、地域の将来像として「豊かな自然と調和した文化を彩る集約型都市の形成」を掲げており・・・「魅力的な文化、自然に彩られた都市環境・定住環境の形成」、「用途地域外における無秩序な開発抑制・・・」 ・マスタープランで掲げられた方針と今回の計画案は矛盾している。マスタープランで掲げた将来像自体が実現されていないにもかかわらず、自然を破壊し、住環境の悪化を招く計画と言わざるを得ない。	24ページに示しているとおり、北部東地域の基本方針には、ご指摘の内容のほか、「本市の北の玄関口として、交通及び物流拠点の形成」「アクセス性の高さを生かした滞在型観光空間の創出及び人口を増進する産業集積」といった内容も掲げられており、これらを総合的に勘案して本計画を策定しています。
7	35, 37, 39	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (1)住民 (2)関係団体等 (4)事業者	うるま市は、各地域の振興に取り組んでいますが、石川地区については他地域に比べ目玉となる施策がなく、取り残されている現状にあり、うるま市石川地域まちづくり推進計画については●●●としても非常に有意義な計画であると認識いたします。 しかし、本素案でまとめられている石川地域に対する関係者の認識（35 ページ～）を確認したところ、石川地域まちづくり推進計画（素案）はごく少数の石川地域住民（石川地域全住民2.4万人のうち0.83%）、及び、ごく少数の市内企業と県外企業（延べ30社未満）の意見でまとめられております。本計画は官民連携での実施を主眼に計画されているプロジェクトも多く、●●●としては、より多くの地域の声、意見を反映させ計画する必要があるのではと考えております。つきましては、本計画について、●●●に対しても意見交換会や説明会などを開催していただきたくお願い申し上げます。 ●●●は、石川地域がより良いまちになっていくことを目指し、活動しております。そのためにも、本計画について積極的に関わりを持ち、意見を述べ、私どもの意見も反映していただきたいと希望いたします。 ※意見提出者の特定につながる表現は、市にて削除及び加工しています。	引き続き地域住民や市内事業者の皆様のご意見を伺いながらまちづくりや各プロジェクトを推進したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
8	35	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (1) 住民	そもそも1月に行ったとされている「住民説明会」であるが、対象地域の住民にその開催を周知していたのか疑問である。いつ呼びかけがあったのかもわからない。アンケート調査に関しては、素案で開発対象となる地区（例えば石川地区ならIC周辺など）を中心にしっかりと実施してほしい。・基本台帳からの無作為抽出1,000名では少なすぎないか。回収数200ではとても地域住民の意見を反映していると思えない。アンケート実施も今回のパブリックコメントもその存在が地域に周知されていない。気が付いたら勝手に開発計画が進んでいたということにならないか心配である。	1月の住民説明会は、市ホームページへの掲載のほか、対象地域内の各自治会へ周知依頼を行いました。アンケート調査については、令和3年度に実施した「うるま市総合計画後期基本計画」に関する市民アンケートの数（無作為2,000名抽出、有効回答数484件）を参考にしており、適切な数であるとと考えています。今後の各プロジェクトの推進にあたっては、地域の皆様のご意見の把握と反映に努めます。
9	37	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (2) 関係団体等 ②結果概要	石川地域について県内でも珍しい山の体験型コンテンツであり観光のポテンシャルが高いとされているのが外れである。山をメインにした自然体験活動は県内各地にたくさんあり、どこが珍しいのだろうか。散発的な自然体験活動の計画と定員が埋まったらすぐに打ち切る消極的な体制にも問題がある。闘牛を観光にするためには、まずは県内から文化的価値を理解してもらうことが必要、観光客相手にすぐにお金を落とす仕組みにしようなど、そもそも闘牛文化を理解しているとは思えない。OISTとどのように連携して農地を利活用するのか意味が不明である。	ご指摘の箇所は、関係団体等へのヒアリングにおいてそのようなご意見があったという事実を示しており、本計画策定の参考としております。
10	39	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (4) 事業者	県外を含む事業者が対象となっているが、県内事業者とのバランスはとれているのか、大規模開発を県外に任せて終わりにならないだろうか。視察結果について事業者からも「機会があれば参画や投資をしたい」というレベルに留まっている。事業者が積極的に関わろうという意欲が見られないのに市側の開発ありきで進めていないか心配。	まちづくりの推進にあたっては、市内、県内、県外の多様な事業者がそれぞれの強みや知見を生かし、連携することが重要と考えており、引き続き事業者に広く参画や投資を呼びかけていきます。現地視察会や事業者サウンディングの中で、民間事業者からの一定の関心がございました。プロジェクトの実現・推進にあたっては、公民連携を主眼としており、行政のみで開発を進める考えはございません。今後各プロジェクトの検討を進める中でも民間事業者との対話を積極的に行い、一層の意欲醸成を図ります。
11	39	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (4) 事業者	素案では全体的にポテンシャルという言葉が多用して説明しているが、事業者から発展可能性や潜在的な価値がたくさん上がっているという感じはしない。学術研究の集積地（石川から離れたOISTのことか）となるとは思えない。ICに近いというだけで産業集積につながると思えない。	石川ICを有し那覇市や那覇空港からのアクセスが良好なこと、恩納村等のリゾートエリアに隣接する位置関係等を高く評価する意見や、産業用地等としての利活用の可能性を示唆する意見が複数の民間事業者から挙がっています。今後も引き続き、民間事業者と対話を積極的に行い、各プロジェクトを推進します。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
12	39	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (4)事業者 ②視察後アンケートの結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・・・原風景を残す又は原風景へと戻すエリアを設定し、保全を図るなどの強弱をつけたまちづくりが必要という意見、沖縄県内での差別化が重要であり・・・ ・・・どこにでもある箱物、大型商業店舗、観光施設ではなく、景観を保全し、環境を破壊しない、持続可能なまちづくりといった点では尊重すべき意見と思う。広島県の尾道のように映画のロケ地となるような沖縄のすばらしい景観を残すあるいは復元を中心としたまちづくり計画を立案して欲しい。 	<p>ご指摘いただいた事業者の意見は、本計画の策定にあたり参考としています。</p> <p>ご意見として承ります。</p>
13	40	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 3. 石川地域に対する関係者の認識 (4)事業者 ④事業者サウンディングの結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・石川地域については、観光より住宅や産業といった印象が強いエリアとの意見があり、今後の方向性についても、産業やビジネス、教育、学術研究といった方向性を目指すべきとの意見がありました。 ・尊重すべき意見。観光開発より暮らしやすいまちづくり、ソフト面への投資は、P100の地域住民アンケート結果（14）やP101（16）からみても地域住民の意向に沿っている。 	<p>ご指摘いただいた事業者の意見は、本計画の策定にあたり参考としています。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	回答
14	41, 84	<p>第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 4. 分析結果の整理 (1) 石川地域の特長・強み</p> <p>第5章 リーディングプロジェクト 2. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (2) プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」 ①サウンディング調査で把握された民間事業者の意向</p>	<p>『石川地区まちづくり推進計画』拝見致しました。以前から気になっていた県営石川団地再整備計画や、石川庁舎の利活用計画を知ることができ、安堵しています。そのプロジェクト2の「石川庁舎周辺の利活用推進」についてですが、少々提言させて頂きたいです。基本的に【案3】に賛同しますが、そこへぜひ“図書館移設”もご検討頂きたいです。</p> <p>理由①アクセスの悪さ 以前から駐車場への出入りの不便さが気になっていましたが、近隣に大型商業施設ができてからはさらに悪化し、危機的場面も見受けられます。加えて隣接するスーパーの車両出入りが多い事もあり、子どもたちの往来時の安全面が気になります。</p> <p>理由②学びの場の提供 図書館と併せて、沖縄市図書館の“学びのへや”のような、学習の場の提供も希望します。家庭で自室のない子や、大人の学び直しやスキルアップスタディなどに使用できると共に、同一施設内にあると図書館への利用も見込めます。</p> <p>理由③図書館整備の改新 職員の皆様のご尽力は理解いたしますが、現在の石川図書館は少々閑散とした印象があります。利用者の増加を見込めるような整備を図ると共に、子どもたちが楽しく利用できるような、特に子どもたちのスペースの熟考を要望します。</p> <p>理由④地域活性化の起爆剤 石川図書館よりも他市町村の図書館へ行く方が少なからずいます。私もそうです。そちらは隣接する市町村民も貸し出し可能としていたり、道の駅で利用できる割引券を配布したりと、工夫を凝らした運営をしています。そういった事例などを参考に運営方法を再考し、利用者の増加を見込めないものかと考えます。また図書館移設にあたり、遊具を兼ね備えた公園の設置も必須だと考えます。若いファミリー層や子どもたちの来館を期待する為です。伊波公園のような、地元の方はもちろん、観光客や外国人家族など、多くの利用者で賑わうその賑わいを、図書館を拠点とした旧庁舎周辺で実現可能ではないかと考えます。</p> <p>最後に、分析結果の整理、石川地域の特徴・強みとして観光産業だけでなく、暮らし・生活といった視点でまちづくりを推進することや、事業者サウンディングの主な意見「利活用方向性」最後、施設構成から教育的な用途での利活用の可能性を感じた。とあり、私はそれが「図書館の改新」に他ならないと考えました。観光産業施設はすでに他地区に整いつつあります。生涯学習施設もしかりです。石川地域の代表といえば“闘牛場”ですが、地域住民へ恩恵があるかといえば疑問符がつきます。また昨今、ICTが進んでいるとはいえ、公共図書館や古本屋、ブックカフェ、カフェ併設の書店など、本を媒体にした施設が賑わいをみせています。“本”に熱心な人々が大勢います。観光地化している図書館さえあります。「図書館の改新」はこれからの石川地域の発展に必ず貢献すると私は思っています。</p>	<p>ご意見として承ります。プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」に関しては、令和6年度に基本計画を策定予定です。その中で、地域住民ワークショップや事業者サウンディングを実施し、実行性などを含めて方向性を決定します。</p>
15	42	<p>第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 4. 分析結果の整理 (2) 石川地域の課題・弱み</p>	<p>うるま市全体が観光客からの認知度が低いとか、石川IC周辺は観光客が通過してしまうという内容の記述があるが、もはや観光を売りにする時代でもないのではないか。ICを利用して石川地域に立ち寄る人が地元住民中心であってもなら構わないのではないかと。</p>	<p>石川IC周辺においては、多くの地域住民の皆様に利用いただくとともに、周辺都市の住民や観光客などが石川地域に立ち寄り、周遊するきっかけとなるような飲食・物販施設の建設等を検討し、交流拠点の形成を目指したいと考えています。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	回答
16	42	第3章 うるま市及び石川地域の現状分析 4. 分析結果の整理 (2) 石川地域の課題・弱み ③土地利用の課題の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 産業用地等としてポテンシャルを有すると考えられるエリアが過去から農地として利用され続けている、遊休地や耕作放棄地が生じているといった指摘が挙がっています。 ・ 非常に問題のある文章である。“農地”は先人から何世代にもわたって受け継がれてきた宝である。それを開発の旨みがあるからさっさと追い出そうとしているのか。言語道断である。遊休地や耕作放棄地の増加は農政の怠慢の結果。新規就農者ややる気のある担い手への農地の貸し出しや市民農園としての利用等、農地の有効活用に行政は知恵を絞って欲しい。使わなければ潰す、無策にも程がある。 	産業振興による地域活性化を図る目的から、雇用の受け皿の創出につながる取組は重要と考えています。また、ご指摘の箇所は、遊休地や耕作放棄地の発生だけでなく、交通アクセス等の周辺環境に適した土地利用を推進する方向性を示しています。農地として活用すべきと考えられる土地については、引き続き農業の振興に資する取組を行っていくべきと考えております。
17	43	第4章 石川地域の目指す姿 1. まちづくり推進の施策体系	まちづくり推進の施策体系について曖昧過ぎる。短期プロジェクトが2030年までを対象期間としているようだが（P3）、あるべき姿が曖昧でSDGs的なバックキャストが見られない。	ご指摘いただいた施策体系は、概念を示したものでございます。本計画の内容をより具体的に示すよう、施策体系図を追記します。
18	44	第4章 石川地域の目指す姿 2. 石川地域の将来像	あまりに抽象的過ぎてイメージがわからない。交通アクセスとしての利便性は分かるが、魅力ある既存の観光施設とは何を指しているのか、地域資源についても具体的に示してほしい。他の項目で具体的に触れているならば、ぜひここにも入れ込むべきである。	魅力ある既存観光施設などは、10～11ページ（第2章 2. (3) 主な地域資源）で整理しているため、原案のとおりとさせていただきます。ご了承ください。
19	45	第4章 石川地域の目指す姿 2. 石川地域の将来像	中南部と北部をつなぐゲートウェイというのは分かるが、現在4月までの高速道路工事だけで大渋滞を起こしている。これ以上交通拠点として車の流れを集約させてどうするのだろうか。いつも渋滞で不便な地域という印象を与えるだけではないだろうか。	いただいたご意見を参考に、渋滞対策等の交通面にも配慮してまちづくりを推進します。
20	46	第4章 石川地域の目指す姿 3. 基本方針 (1) 域内外の人が集う賑わい交流空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、賑わい空間を作る必要があるのか。どこの観光地もオーバーツーリズムが問題となっている。人が来て、カネを落とせばいいだけの問題ではない。安心して暮らせるまちを多くの市民は望んでいる。静かな住宅地ではダメなのか。 	石川地域の将来にわたる発展に向けて、雇用の受け皿の創出と居住環境整備はいずれも重要と考えております。
21	46	第4章 石川地域の目指す姿 3. 基本方針 (2) 新しい時代にマッチした産業の振興や創出	石川地区そのものに大きな火力発電所を構えなおかつそれに依存している電力事情において、脱炭素・SDGs等の社会動向の変化を踏まえた産業の創出とはどんなものなのか。舞天館はインキュベーション施設から観光機能を持たせた施設へと転換を図るようだが、それこそ文化施設にできないものか。これからの地域資源は教育であってほしい。	様々な社会変化に対応したまちづくりを進めていく必要性として記述しております。舞天館に関するご意見は参考とさせていただきます。
22	46	第4章 石川地域の目指す姿 3. 基本方針 (2) 新しい時代にマッチした産業の振興や創出	<p>(15行目) ・ ・ ・ 脱炭素・SDGs等の社会動向の変化を踏まえ、将来にわたる石川地域の発展に資する土地利用への転換を図り、 ・ ・ ・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脱炭素・SDGsを踏まえてなぜこのような開発ありきの計画になるのか理解に苦しむ。全く時代にマッチしていないのは明白。 	ご意見として承ります。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
23	48	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト1 石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～	石川闘牛場エリアの開発には市民として反対です。コアなファンをターゲットにした闘牛では地域活性の限界があると考えており、一部の闘牛ファンのために石川多目的ドーム周辺をそこまで整備する必要があるのかと懸念が残ります。多目的ドームの駐車場では牛のフンが駐車場に落ちているままになっていたり、まだまだ施設利用者の意識の低さが目立ってしまっています。 子育て世代の僕からは普通に大きな公園を作り、賑わいをつくれれば公園内のカフェの利用者は増えると考えています。	ご意見をいただいたプロジェクトでは、石川IC周辺の交通利便性を生かし、多くの地域住民の皆様に利用いただくとともに、周辺都市の住民や観光客などが石川地域に立ち寄り、周遊するきっかけとなるような飲食・物販施設等を検討し、交流拠点の形成を目指したいと考えています。また、闘牛はうるま市を代表する地域資源・観光資源であり、本市は「闘牛のまち」宣言をしております。「闘牛のまち」をPRすることにより、うるま市の認知度向上及び来訪者の増加促進につなげ、闘牛文化の継承と観光・商工業の活性化を図ります。
24	48	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト1 石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～	石川IC付近に、道の駅等の集客施設整備の検討とあります。 赤崎1丁目の交差点は、令和4年度に主要渋滞箇所に登録されており、渋滞が課題であると認識しております。 そのようななかで、『集客』を目的とした施設を周辺に建てると、渋滞がさらに悪化してしまいます。 『交通・渋滞』にと『まちづくり』を一緒に検討すべきと考えます。 本市の考え方を是非聞きたい。	いただいたご意見を参考に、交通面や渋滞発生に配慮してプロジェクトを推進します。また、46ページ（第4章 3. (3)）等で交通結節機能の導入や地域公共交通の充実に触れているように、まちづくりと交通は密接に関連するものと認識しています。 また、関連して「うるま市道路整備プログラム（本市ホームページにて公表）」において、赤崎交差点の渋滞緩和を図ることを目的として、（仮称）石川IC線が短期整備路線に位置づけられています。
25	48	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト1 石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～	・地図にある利活用想定エリアには住宅地がある。住民への説明も何一つなく、このような生活を脅かす計画がされているのは一体どういうことか。断固反対する。	ご意見として承ります。 なお、今後の各プロジェクトの推進にあたっては、引き続き地域の皆様のご意見の把握と反映に努めます。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
26	48, 80	<p>第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト1 石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～</p> <p>第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」</p>	<p>意見 ①闘牛場付近に牛舎を整備し、闘牛大会がないときでも闘牛に触れ合える環境を整備する。 ②闘牛を公営賭博にする。</p> <p>理由 ①現在は年に数回闘牛大会をしているだけで、それ以外は闘牛場が存在しているだけで機能していないのが現状ではないでしょうか。市内に点在する牛舎を多目的ドーム裏側に整備することで、大会がないときでも闘牛の見学や触れ合いができるような施設を作ってはいかがでしょうか。 ②賛否あると思いますが、闘牛シーンを盛り上げるにはこれが一番の特効薬だと思っています。競馬、競艇、競輪など他の公営賭博のように法的な整備から始める必要があります。議員先生の協力が必須になります。また、必ずしも金銭を掛ける賭博でなくても、うるま市の地域通貨などを発行して、バーチャルな賭博でも良いのではないのでしょうか？こちらの方が実現可能かもしれませんね。 大分県の別府ラクテンチでは、アヒル競争で金銭以外の賭けをやっていますので参考になりそうです。 https://rakutenchi.jp/animal/animalsub1/</p> <p>役所にしかできない役割に期待しています。</p>	<p>石川IC周辺においては、多くの地域住民の皆様に利用いただくとともに、周辺都市の住民や観光客などが石川地域に立ち寄り、周遊するきっかけとなるような飲食・物販施設の建設等を検討し、交流拠点の形成を目指したいと考えています。また、「闘牛のまち」をPRすることにより、うるま市の認知度向上及び来訪者の増加促進とともに、闘牛文化の継承と観光・商工業の活性化を図ることを目的としています。</p> <p>いただいたご意見のうち公営賭博競技化については困難と考えますが、必要に応じて、紹介いただいた事例を参考に検討の余地はあると考えます。</p> <p>その他のご意見は参考とさせていただきます。</p>
27	51	<p>第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト1 石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～ ④プロジェクトの方向性</p>	<p>④プロジェクトの方向性 中で道の駅等の集客施設の整備を検討とあるが、付近にも恩納の駅等類似の施設があり、競合するのは目に見えている。沖縄自動車道から直接立ち寄ることのできる施設とあるがパーキングエリアはすぐ近くに伊芸SAもあり、これも競合する。直接出入りとなると、大規模な道路工事を伴い、このエリアでは収まらず、住宅地にも影響が及ぶのは目に見えている。そもそも石川ICから自動車道上り本線への合流車線がエリア沿いまで延びており、集客施設への乗り入れは物理的に不可能ではないか。さらに多目的ドームへ抜ける生活道路も住民は利用できなくなる。また、駐車場の収容台数はどうなるのか。只でさえ闘牛大会の度に周辺への迷惑駐車が横行しているところに新たに集客施設を造るのはどう見ても無謀な計画である。オーバーツーリズムも大いに懸念される。</p>	<p>ご意見をいただいたプロジェクトの検討にあたっては、競合が想定される施設との差別化や渋滞対策等に配慮します。沖縄自動車道からの乗り入れや周辺的生活道路、駐車場の収容台数については、引き続き検討します。</p> <p>プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成」に関しては、プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」とあわせて、「石川ゲートウェイ拠点形成基本計画」を策定予定です。その中で、地域住民ワークショップや事業者サウンディングを実施し、方向性を決定します。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	回答
28	52	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト2 石川庁舎周辺の利活用推進	<p>スケート競技を沖縄の文化に！</p> <p>【提案】国際規格アイススケート場・ローラースケート場（アイススケート場の冷気をローラースケート場に循環させたツインリンク）及び東京オリンピック同様の企画のスケートボード競技場、周辺はローラースケートのできる周回マラソンコースと県内外からも大会・合宿などができるよう体育館と最新式ジムを備えた総合スケートテーマパークを提案します。飲食や買い物もできる施設も含めての提案です。</p> <p>スケート競技は野球やサッカーのようにどこでもプレーできるスポーツではなく、どこに施設があるかとても重要なスポーツです。うるま市石川は沖縄県のくびれた部分です。北にも南にもちょうど同じくらいの距離であり、現在スケートリンク（エナジックスポーツワールドサザンヒル）が南部にあるため北部の方は頻りに利用できない状態です。しかし、沖縄の真ん中になれば 現在各年代のチーム（少年・中高生・大学生・一般男女・シニア）が南部チームvs北部チームという構図が可能になるかもしれません。大学生の部では2022年度琉球大学が男子チームは九州ブロックを制覇しインカレに出場。琉球大学女子チームは全日本女子学生アイスホッケー大会にて2年連続全国3位という輝かしい成績を上げています。対戦相手の少ない琉球大学の選手たちにも、スポーツに強い名桜大学が名のり出してくれる可能性も広がります。今のリンクは老朽化が進んでいるためフェンスが設置できない状態です。そのため公式な大会や試合を開催できないのです。アイススケート場には冷気が溢れます。その冷気を循環させたローラースケート場を（ツインリンク）とスケートボードや多くのローラースポーツができる。スケート競技にまつわるテーマパーク！</p> <p>・沖縄にアイスホッケープロチームを誘致し観戦し感動と興奮を届けたい！ 沖縄にプロチームを誘致することにより沖縄県のアイスホッケーレベル向上と集客による収入など他の市町村に負けないスポーツ事業ができる事間違いないでしょう。南国沖縄県から日本代表選手が誕生することも期待したい！</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」に関しては、令和6年度に基本計画を策定予定です。その中で、地域住民ワークショップや事業者サウンディングを実施し、実行性などを含めて方向性を決定します。</p>
29	57	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト2 石川庁舎周辺の利活用推進 ④プロジェクトの方向性	<p>・石川庁舎周辺の既存施設をすべて更地にする提案もとあるが、しっかりとメンテナンスをすればまだまだ利用できる施設ばかりである。合併後の分庁方式も反故にして、具志川にすべて集約し、旧石川市の施設はほったらかして壊すだけなのか。</p> <p>・市の行政窓口機能を移転と言っているが、石川地域の中心はあくまで石川庁舎のある場所である。移転には反対。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	回答
30	58	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト2 石川庁舎周辺の利活用推進 ④プロジェクトの方向性	・表にあるテーマ・導入機能は、どこの観光地にもあるものばかりで全く目新しさもない。わざわざここまで人が来るか。他との差別化を図るのではなかったのか。	ご指摘のテーマ・導入機能は、本計画策定以前の既存計画における利活用の方向性を示したものです。 83ページ以降（第5章 2. (2)）に示しているとおり、同計画の内容について民間事業者にサウンディング調査を行ったところ、差別化の必要性等を指摘する意見が多く挙がったことから、同計画の内容を基とした案1に加え、案2及び案3を取りまとめ、今後の検討を進めます。 プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」に関しては、プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成」とあわせて、「石川ゲートウェイ拠点形成基本計画」を策定予定です。その中で、地域住民ワークショップや事業者サウンディングを実施し、方向性を決定します。
31	59	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト2 石川庁舎周辺の利活用推進 ⑤公民連携の方針	・・・教育・研究機関等の集客施設以外の機能導入の可能性も示されており・・・ ・地域住民アンケートの結果からも教育・研究機関等の集客施設以外の誘致が望ましいと思われる。	ご指摘の民間事業者からの意見を参考に、83ページ以降（第5章 2. (2)）に示している案3を取りまとめ、他の案と並行して引き続き検討します。
32	60	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト3 市民の森公園のリニューアル	市民の森の公園整備には賛成です。幼少時代に市民の森に毎週通った思い出があり、巨大な遊具や池で朝から夕方まで遊んでいました。今では遊具は無く、過去の事件の雰囲気のまま残っているので、雰囲気をかえて新しい遊具の整備やカフェが出来たりと人の流動がある施設に変えていかなければいけないと感じています。 ぜひとも大型のアスレチックの遊具を整備し、子どもたちを対象にした公園へと変貌して欲しいです。	いただいたご意見を参考に、子どもをはじめとした多くの人が訪れ、憩いや賑わいのある公園のリニューアル実現に向けて取り組みます。
33	60	第4章 石川地域の目指す姿 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト3 市民の森公園のリニューアル	国頭森林公園やおっぱ森林公園と比較しても市街地に近く、周辺には農園や果樹園等がある。森は幼児から大人まで登山気分を味わうことができる魅力的な場所である。緑地帯と森という起伏に富んだ場所はこころま市においてはここだけである。P80・15行に記載の通り石川ICと一般道からのアクセス方法が見いだせばより一層よい条件が加わる。こうした立地条件を十分に活用整備に方向性を考えると市民交流や他地域の集客力が増す。遊具等はおかない方がよい。健康志向の高まりに着目したイベントの開催もできる。オートキャンプ場や小規模のコテージの設置はどうだろうか。そうしたことを可能にするには、より安全で清潔な環境を保たなければならない。環境保持には施設管理費の負担を利用者へお願いしてもよいと思う。より環境への意識が高まる事へ繋がる。	いただいたご意見を参考に検討します。 市民や来訪者の憩いや賑わいの場として利用される公園を目指します。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
34	61	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト3 市民の森公園のリニューアル ①背景及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・老朽化した大型アスレチック遊具の撤去等による魅力低下や機能の陳腐化により、現状は多くの方が訪れる公園とはなっていません。・・・ ・ここでも老朽化＝撤去。日頃からのメンテナンスがなされていないから、老朽化も早い。草も伸び放題、野犬、野良猫の住み処になれば利用者も離れるのは当たり前。これは予算を掛けない行政の責任。 	ご意見として承ります。 適正な維持管理に努めます。
35	61	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト3 市民の森公園のリニューアル ④プロジェクトの方向性	<p>プロジェクトの方向性の中に、トレイルランができるコースの整備を盛り込んでほしいです。</p> <p>現状、沖縄県内では国頭村にしかトレイルランが行われていないため、交通アクセスのよい石川にトレイルランのコースを整備すれば市民や来訪者の健康意識向上や、イベント開催による集客が期待できます。</p>	ご意見として承ります。 市民や来訪者の憩いや賑わいの場として利用される公園を目指します。
36	62	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト3 市民の森公園のリニューアル ⑤公民連携の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・石川運動広場には、いつの間にか、住民も知らないうちにカフェがオープンしている。子ども達が遊んだり、遠足の場所であったのに酒類を提供する民間業者の店舗を作るのは如何なものか。ここでも遊具のメンテナンスをせず、撤去するだけだった。市民の森公園でも同じことを繰り返すのか。 	ご意見として承ります。 適正な維持管理に努めます。本市では、公園における公民連携を推進しており、市民や来訪者の憩いや賑わいの場として利用される公園を目指します。
37	63	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト4 「子育て・福祉」複合施設の整備	<p>伊波団地跡地を使った福祉施設の建設予定には反対です。</p> <p>今現在、障害福祉の発展スピードは早く、就労支援施設はうるま市でも60カ所以上、児童発達/放課後等デイサービスも40以上の施設があります。その中で障害福祉/障害児の支援はこと足りているように感じ、例え施設ができて利用する方がいるのか疑問が残ります。</p> <p>障害サービス利用する際には必ず1人相談員が付くことになっており、障害者のいる家庭ではその相談員に今後の進路相談を行っています。その中で施設建設まで行い、利用する方がいない場合のその他利用まで考えた計画でなければ、建設費の無駄使いになってしまう。</p>	ご意見をいただいたプロジェクトは、県営石川団地の隣接地において、子育てや高齢者福祉、行政窓口等の行政サービス機能を有する複合施設を整備するものです。 子どもからお年寄りまで誰もが安心して生活できる地域の実現に向けて、子育てや福祉に関する機能の充実を図ることは重要と考えています。
38	66	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト5 国道329号沿道の新たな土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・養豚場の悪臭問題と土地利用は別問題。養豚場は移転等を含めて行政が真摯に解決に向けて取り組んで欲しい。 ・国道329号沿線エリアは開発する側から見れば魅力的な旨みのある場所であるのは間違いない。しかし、今の時代、輸入食糧の高騰、安全保障上の観点からも食糧自給が見直されている。農地を潰すのは簡単だが、再び豊かな農地を取り戻すには長い年月と手間暇がかかる。このエリアの農地は背景の石川岳と相まって素晴らしい景観を構成している。このまま農地として活用するのが望ましい。耕作放棄地はやる気のある担い手や新規就農者に貸し出すなり、市民農園として整備するなり方法はある。行政のやる気次第である。 	ご意見として承ります。 本プロジェクトは、実現に向けて解決すべき課題が多岐にわたるため、長期的な取り組みになると考えており、現時点から継続的に関係団体と対話を行い、当該エリアのポテンシャルや土地利用の方向性を検討します。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
39	67	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト5 国道329号沿道の新たな土地利用 ④プロジェクトの方向性	記載通りの可能性は十分考えられる。恩納村の研究機関との連携は魅力がある。そこへ、伊波城址の整備を本格的に行うことが出来ればこのプロジェクトは膨らみ勝連城とは異なる観光資源となる。石川ICにもほど近く新たな資源として活用した方が良い。	ご意見をいただいたプロジェクトは、実現に向けて解決すべき課題が多岐にわたるため、長期的な取り組みになると考えており、現時点から継続的に関係団体と対話を行い、当該エリアのポテンシャルや土地利用の方向性を検討します。
40	68	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト6（仮称）うるまICの整備推進及び新たな産業誘致の検討	・石川ICはとても上等。石川地域発展の要である。住民は異口同音にその便利さを語る。うるま市でこのような交通機関は大きな武器である。しかしながら、現在その周辺の交通渋滞は激しく、経済へも多大な損失を被っている。早期の渋滞解消がプロジェクト達成となる。 道の駅を石川ドーム、舞天館周辺で展開できないか。駅構内はマチヤグアの要素を取り入れる。闘牛場からの誘客、日常の買い物で人的交流が生まれる。近くには恩納村の駅があるので、差別化を前面に打ち出す必要がある。石川は以前そば屋が有名であった。復活させたい。スーパーマーケットでは味わいことができない、あたたかい田舎の雰囲気づくりが観光客に新鮮におもえるのでは。本土の朝市の雰囲気はどうだろうか。住民アンケートを実施するのもよい。 新たな産業誘致に関し、新しい産業を誘致することも大切であるが、衰退しているが、しかしこの地域でのみ栽培されている山城茶の復興をぜひ実現してほしい。希少価値のある産業を復興させることが地域振興へとつながる。経済発展と雇用促進、技術者の育成で多岐の可能性があるのでないか。 最後に、石川地域の活性化を切に望む。	石川IC周辺の交通渋滞は主要な課題と認識しています。関連して「うるま市道路整備プログラム（本市ホームページにて公表）」において、赤崎交差点の渋滞緩和を図ることを目的として、（仮称）石川IC線が短期整備路線に位置づけられております。 第4章 4. プロジェクト1や第5章 2. (1)にも記載していますが、石川IC周辺の交流拠点形成においては、道の駅等の集客施設の整備を検討しています。 その他のご意見は参考とさせていただきます。
41	68	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト6（仮称）うるまICの整備推進及び新たな産業誘致の検討	新しく石川ICを東恩納エリアにできることは賛成です。 東恩納や美原に住んでいる方で、南に高速に乗る場合には北インターに乗ることが多いのですが、平日だと毎朝混んでいる状況があり、高速通勤の方は不便な状況となっています。また、石川インターで降りる場合には混んでいる状況もあり、新しい石川エリアのIC開通を進めて欲しいです。	ご意見をいただいたプロジェクトは、楚南地区周辺における「（仮称）うるまIC」の追加設置を推進するものです。 沖縄北ICや石川ICの混雑緩和に寄与し、地域住民の皆様の利便性向上を図ると共に、地域の経済活性化につなげるため、予定地周辺の産業用地等としての活用を見据えた検討を行います。
42	71	第4章 石川地域の目指す姿 4.まちづくり推進に向けたプロジェクト プロジェクト7 東恩納周辺の新たな土地利用	東恩納エリアにおける農地転用は、今後のうるま市石川における重要な開発に繋がると期待できます。30代～40代の子育て世代では石川ではアパートが建っても、すぐに入居者が決まってしまうと友達間で話すほどです。早急な宅地の開発や使っていない農地エリアの有効活用を東恩納エリアで行うことを進めてほしいです。 また、新しい認可の幼稚園建設されていたりと、子育て世代にも立地が良く、石川センターや具志川に行くにも便利な位置になっていることから、東山エリアのような住宅開発が期待できます。 また、商業施設の誘致や石川発展における重要位置付けの計画になると考えられる。	産業振興による地域活性化を図る目的から、雇用の受け皿の創出と居住環境整備は重要と考えております。いただいたご意見を参考に、東恩納周辺の新たな土地利用の実現に向けて取り組みます。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
43	80	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」	闘牛については単にお金を落とす仕組みづくりの対象とするのではなく、歴史は浅いが一つの伝統として文化的な価値を認めていったらどうか。舞天館は闘牛博物館的な役割を持たせてほしい。動物愛護という視点を超越した理解を求め、文化として認めてもらえなければいつまでたっても理解は得られない。市としてもっと前面に出して堂々と誇るべきである。	闘牛はうるま市の文化財に指定されています。また、闘牛はうるま市を代表する地域資源・観光資源であり、本市は「闘牛のまち」宣言をしております。本プロジェクトを通じて「闘牛のまち」をPRすることにより、うるま市の認知度向上及び来訪者の増加促進とともに、闘牛文化の継承と観光・商工業の活性化を図ることを目的としています。 舞天館に関するご意見は参考とさせていただきます。
44	80	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」	・サウンディング調査での意見を見ても、「・・・休憩や立ち寄りの需要が見込みにくい。」「うるま市ならではの魅力・・・を目指す必要がある。」「周辺のPAや道の駅との競合を懸念する」「・・・「闘牛」を交流拠点のコンセプトにすることについては、現状は年配層向けのコンテンツであることや、近年の動物愛護に対する意識の高まり等を踏まえると、幅広い層に訴求するコンセプトにはなりにくい・・・」など、今回のプロジェクト1の計画に否定的な意見が多く見られている。なのに、真逆な計画を押し進めようとしているのはどういうことか。始めから開発ありきで、各種調査はただのアリバイづくりか。 「闘牛」をコンセプトにするのは時代に逆行していると言わざるを得ない。世界の潮流はアニマルウェルネス（動物福祉）であり、人間の娯楽のため、動物を戦わせるのは虐待でしかない。これをコンセプトとするのは恥ずかしい。明治以降始まったものを伝統と言えるかも疑問。また世界の潮流として、肉食、家畜飼育を忌避する流れもあり、牛の吐き出すメタンガスが地球温暖化に与える影響は広く知られていて、対策が取られているにもかかわらず、娯楽のためのだけの飼育はSDGs等の観点からどうかと思わざるを得ない。鳥インフルや豚熱等、動物への感染症等の問題もあり、ひとたび流入すればすべてがストップするのを観光の目玉にすることも納得は行かない。	ご指摘のようなご意見がある一方、立地や「闘牛」のコンセプトを前向きに評価する民間事業者のご意見も複数把握されています。今後、プロジェクトを推進する中でも民間事業者との対話を積極的に行い、民間事業者の意欲醸成や多くの方が利用したいと思える施設計画への落とし込みを図ることが重要と考えております。 また、闘牛はうるま市の文化財に指定されている貴重な地域資源・観光資源であり、本市は「闘牛のまち」宣言をしております。「闘牛のまち」をPRすることにより、うるま市の認知度向上及び来訪者の増加促進とともに、闘牛文化の継承と観光・商工業の活性化を図ります。
45	81	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ②推進の方向性	・・・沖縄自動車道からも直接乗り入れできる施設を目指します。・・・ ・前述もしたが、すぐ近くに伊芸SAもあり競合する。集客が見込めるか疑問。直接出入りとなると、大規模な道路工事を伴い、このエリアでは収まらず、住宅地にも影響が及ぶのは目に見えている。そもそも石川ICから自動車道上り本線への合流車線がエリア沿いまで延びており、集客施設への乗り入れは物理的に不可能ではないか。さらに多目的ドームへ抜ける生活道路も住民は利用できなくなる。駐車場の収容台数はどうなるのか。只でさえ闘牛大会の度に周辺への迷惑駐車が行っているところに新たに集客施設を造るのはどう見ても無謀な計画である。オーバーツーリズムも大いに懸念される。	ご意見をいただいたプロジェクトの検討にあたっては、競合が想定される施設との差別化や渋滞対策等に配慮します。 なお、沖縄自動車道からの乗り入れについては、今後、実現の可能性を検討する趣旨で記載しています。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
46	81	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ②推進の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・・・「闘牛のまち」をPR・・・ ・前述の通り、動物福祉・愛護の観点からも反対である。 	ご意見として承ります。
47	81	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ②推進の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・・・構内道路及び駐車場の増築等を検討します。 ・このエリアで、闘牛大会時と集客施設への車を収容するだけのキャパが確保できるのか。周辺住民の生活環境が劣悪になるのは目に見えている。このエリアには手付かずの緑地帯や農地が残っており、野鳥や小動物の生息区域となっている。湧水もある貴重な自然環境が残っている。開発せず、そのまま未来のため、子孫に残すべきである。 	ご意見として承ります。
48	82	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ③イメージパース	<ul style="list-style-type: none"> ・この中にある高速バスの乗り入れはどういうことなのか。新しく道路を作り、繋げるのか。ここには住宅地があり、市民が生活をしている。立ち退かせるつもりか。何度も言うが、パーキングエリアを作るとなるとこの想定エリアでは収まらないことは目に見えている。住民の生活道路が利用できなくなる。計画そのものが無謀である。住民の理解は得られない。静かな住環境を守るべき。 	ご意見として承ります。 なお、今後の各プロジェクトの推進にあたっては、引き続き地域の皆様のご意見の把握と反映に努めます。
49	82	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (1) プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成～（仮称）ブルファイトパーク～」 ③イメージパース	これを基に作成するイメージパースがどんなものか興味があるが、自然林を切り開いて駐車場で埋めることが経済的な発展につながるとは思えない。これ以上中部地区の自然開発は必要ないのではないか。今のままの自然を保持して後世に残すことの大切さに気付いてほしい。ここが一番気になる点である。 うるま市内の公園管理と整備が十分とは思えない状況で、新たに作る公園がしっかりと管理運営ができるのか疑問である。また、開発については近隣住宅への説明と理解を得ることが先であろうが、それがなされていない。	イメージパースは計画策定時に公表します。 石川多目的ドーム駐車場の収容能力不足を解消するために、増築等を検討しております。検討にあたっては、自然環境に配慮いたします。 公園については、公民連携による適切な管理運営も含め検討します。 プロジェクト1「石川IC周辺の交流拠点形成」に関しては、プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」とあわせて、「石川ゲートウェイ拠点形成基本計画」を策定予定です。その中で、地域住民ワークショップや事業者サウンディングを実施し、方向性を決定します。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
50	85	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (2) プロジェクト2「石川庁舎周辺の利活用推進」 ②推進の方向性	・推進の方向性として、3案示されているが、P84の事業者からの厳しい意見は納得のいくものであり、意見を尊重すべきと思う。住民アンケート結果も加味すると、【案3】をベースとするのがベターだと思われる。ただし、石川庁舎等既存の施設を取り壊すのではなく、長寿命化の改修を行い、活用する方向で考えて欲しい。また、行政窓口機能については、このエリアに残して欲しい。合わせて、既存の商店街等の活性化への取り組みも盛り込むべきと思う。	ご意見として承ります。 なお、案3に限らず、ご指摘のプロジェクトは、石川地域の既成市街地への波及効果の創出を重要なテーマと位置づけて検討していきます。
51	88	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (3) プロジェクト5「国道329号沿道の新たな土地利用」	329号沿いの有効活用は早期に実現してほしい項目です。 該当エリアの農振除外を働きかけることは当然として、それ以前に329号沿い周辺の遊休農地・放任耕作地の整備（買収、代替地）など行っておくと円滑に進むのではないのでしょうか。長期目標とのことではありますが、前倒しで達成できるにこしたことはないと思っています。	ご意見をいただいたプロジェクトは、実現に向けて解決すべき課題が多岐にわたるため、長期的な取り組みになると考えており、現時点から継続的に関係団体と対話を行い、当該エリアのポテンシャルや土地利用の方向性を検討します。
52	88	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (3) プロジェクト5「国道329号沿道の新たな土地利用」 ①サウンディング調査で把握された民間事業者の意向	・事業者サウンディングの主な意見の中で、「まずは現状の農地のままで実現可能な、観光農園や農業加工体験を行う施設の整備から検討してはどうか」「・・・沖縄の希少植物や動物を扱う展示施設を整備できると面白い・・・」などあるが、大規模な開発をするよりはましな意見ではある。しかしながら、前述しているとおり、農地を潰すのは簡単。農地は農地として利用するべきである。他の市でも観光農園や農業加工体験を行う施設を整備したところはあるが、何れも集客に苦労している。沖縄の希少植物や動物を扱う展示施設も近くにビオスの丘や東南植物楽園等があり、差別化は難しい。何度言うが産業用地としての開発は断固として反対する。農地と景観を保全すべき。	ご意見として承ります。
53	90	第5章 リーディングプロジェクト 1. リーディングプロジェクトの推進に向けた検討 (3) プロジェクト5「国道329号沿道の新たな土地利用」 ③推進の方向性	・・・プロジェクトの完了が見込まれる時期には、社会経済の動向やうるま市及び石川地域を取り巻く状況が現在と大きく変わっていることも想定されます。・・・ ・今はもう、かつてのような大規模な開発や企業誘致で経済活性化という時代ではない。プロジェクトが完了したら負債だけが残る、無駄な箱物だけが残るということがないよう慎重に考えて欲しい。金儲けや右肩上がりの経済成長など、今後見込めるわけもない。持続可能な社会を推進しなくては人類は生き残れない。自然環境を守り、開発はストップすべきは自明の理である。	ご意見として承ります。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
54	91	第6章 まちづくりの推進に向けて 1. 推進体制 ③地域住民や関係団体との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画及び関連する取組の進捗状況等について、市の広報紙・ホームページ・SNS等で定期的に発信し、地域住民の理解を得ながらまちづくりを進めます。 ・住民の理解を得るのは当然であるが、ホームページに載せただけで説明したつもりになっていないか。住民には高齢者が多く、必ずしもホームページを見れるとは限らない。住民の元へ直接向き丁寧な説明を行うべきである。P93以降にあるアンケート結果を見ても、配布数は1000通で回答は200通。人口比で言えば0.8%からの回答しかなく、根拠とするには甚だ乏しい。計画案への意見聴取は、石川地域の全世帯へ行うべきである。 ・地域住民の知らないうちに計画が進んでいくと、行政への不信しか生まれてこない。いたずらに地域住民の不安を煽ることのないように丁寧な説明と聞く姿勢を行政に求めたい。 	引き続き地域住民や市内事業者の皆様のご意見を伺いながらまちづくりや各プロジェクトを推進したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。
55	- 全般		<p>まちづくりとして賑わいの創出という観点からすごく良いことではある。しかしながら、近年本市は人口が増加傾向であることから、人口変動に対する本市の考え方を整理する必要があると考えます。</p> <p>まちづくりをする事により、人口も増え、人流も必然的に増加します。そのような場合、交通も切り離してはならない課題だと一般的に考えられます。</p> <p>交通に関しては、どのような見解でしょうか。</p>	<p>12～15ページ（第3章 1. (1)）にお示ししているとおり、本市及び石川地域の人口は増加傾向である一方、高齢化も進行しています。石川地域の将来にわたる発展に向けては、幅広い年齢層の人が訪れ暮らすまちを目指す必要があり、そのためには雇用の受け皿の創出や居住環境整備が重要と考えております。</p> <p>交通に関しては、46ページ（第4章 3. (3)）等で交通結節機能の導入や地域公共交通の充実に触れているように、まちづくりと密接に関連するものと認識しています。</p> <p>なお、交通に関する具体的な施策は「うるま市総合交通戦略（本市ホームページにて公表）」等の関連計画に基づき推進します。</p>
56	- 全般		ポテンシャルの高い本市にたいして、将来を見据えたブランディングを是非とも検討していただきたい。	ご意見として承ります。
57	- 全般		まだまだ疑問点はたくさんありますが、とりあえず石川地区（IC付近）の開発について現在の素案には反対の立場を表明します。	ご意見として承ります。

No.	ページ	項目	ご意見	回答
58	-全般		<p>・インラインスケート・ローラースケート競技の普及 ローラースケートはアメリカでは文化になっている体幹スポーツです。アメリカ人の多い沖縄ではそのまま文化になるスポーツだと思います。インラインスケート競技は種目もたくさんあり現在ヨーロッパや北南米では盛んにおこなわれています。 例) フィットネス・インラインホッケー・インラインフィギュア・アグレッシブ・フリースタイル・スピード競技・マラソン・アルペン他 インラインマラソンとマラソン、散歩コースを周囲を囲むコースを整備していただきたいと考えてます。 東京地区では、インラインホッケーはキッズからシニア・男女のチームが各階級に分かれ約80チームが存在しております。インラインホッケーに関しては国際規格のリンクは日本全国でも珍しく世界大会を沖縄で開催することを目的にしてもよいと思います。公式サイズのリンクを持つことにより、沖縄県で国際ローラースポーツの大会を開催できるようになり、多くの集客が期待できます。日本代表では女子チーム・少年の部の参加はなく日本全国で育成が必要となっています。ちなみに少年の部の優勝はお隣の国チャイニーズタイペイです。</p>	ご意見として承ります。
59	-全般		<p>・スケートボード競技 東京オリンピックの感動をそのまま沖縄に！ 東京オリンピックで男女とも素晴らしい成績をあげたスケートボード競技 その東京オリンピックで使用した会場をそのまま石川に再現してあの時の感動と興奮をそのまま閉じ込める。東京オリンピックで活躍した方々の写真やプロフィールを周辺に展示しこれから世界を目指す子供たちのバロメーターにする。 国際大会を開き、新たな感動を沖縄から世界に！</p>	ご意見として承ります。
60	-全般		<p>・石川地区に飲食店と専門店街を整備 石川地区は飲食店がわりと少なく安くておいしくおなか一杯食べられるお店が少ないのが現状です。そこで栃木県宇都宮市のインタパークのような飲食とファッションやインテリアなどの専門店と飲食店を誘致するのはいかがでしょうか。</p>	ご意見として承ります。
61	-全般		<p>【まとめ】 ・国際規格のスケートリンク（アイススケート・ローラースケート）を作る ・沖縄でアイスホッケー・インライン・ローラースケートの大会・合宿などを開催。 ・南国沖縄にアイスホッケープロチームを誘致する。 ・ローラースポーツの日本初のテーマパークを作る ・うるま市でローラースポーツの世界大会を開催する ・飲食店と専門店街を作る よって全世界からの集客が収益が上がることも間違いはないと考えています。</p>	ご意見として承ります。